

【船一学区版】 架け橋期のカリキュラム		★「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）、「育みたい資質・能力」に基づいた細かな教育課程については、各園・各校の年間指導計画やスタートカリキュラムに示す。 ★年間指導計画、スタートカリキュラム等を作成する際には、「架け橋期のカリキュラム」に示された視点が取り入れられているかどうかを十分に検討する。 ★＜ ＞ に目指す子どもの姿、・ に支援上の配慮事項を示す。			
地域をつなぐ 未来とつながる 男鹿の子ども					
架け橋期に期待する子ども像（船一小学区で目指す子どもの姿）		わくわく にこにこ やってみよう 伝えてみよう つながる くじらっこ			
		5 歳 児		小 学 校 1 年 生	
4 月～9 月		10月～3月（アプローチ期）		4月～6月（スタート期）：「スタートカリキュラム」の活用	
く じ ら っ こ に 育 み た い 資 質 ・ 能 力	粘り強さ	＜「やってみたい」「もっと知りたい」という思いをもち、やり抜こうとする子ども＞ 子どもがピンチに直面したときの支援を段階的に減らし、乗り越えられる失敗を経験することができるようにしていく。			
		- 身近な人や物事に自ら関わることができるように、興味や関心を引き出す言葉掛けを工夫し環境の構成をする。 - 新しいことに挑戦したり繰り返し試したりすることができるように、励ましたり、認めたりし意欲につなげていく。 - 小さな成功体験を積み重ねていけるようにする。	- 自信をもって様々な遊びや活動に関わっていくことができるように、子どもの興味、関心を受け止め、必要なものを共に考えたり、環境の構成をしたりしていく。 - やり遂げる楽しさを味わうことができるように、共通の目的に向かって試行錯誤しながら協力して取り組む活動を意図的に設けたり、目的の実現に近付いていく過程を随時認めたりする。	「やってみたい」という思いを引き出し、その思いを実現することができるように、必要な物事を見通して事前に準備するなど環境を整える。 「自分でできた」という実感を味わうことができるように、児童の実態に合わせて、体験と思考の時間を十分に確保する。	- 個に応じた支援ができるように、学習状況を丁寧に見取り、学習過程を工夫したり選択肢を示したりする。 - 意欲的に取り組んだり自分でできるようになるまでがんばったりすることのよさに気付くように、単なるお客さんとしてではない、園や異学年との交流の場を設け、価値付けていく。
	思いやり ・ 協調性	＜人との関わりを通して、自分が大切にされている実感や友達がいる喜びに気付く子ども＞＜互いのよさを認め合いながら行動しようとする子ども＞ 子ども同士のいざこざを通して、他人との関わり方が学べるような教育・保育のスタンスを通底する。			
			一人一人の持ち味が発揮されることで互いのよさに気付くことができるように、子どもの姿を周りにも伝え、自己発揮できるように認めたり、励ましたりする。	- 友達との関わり方や相手の気持ちを考えるきっかけとするために、役割を分担したりルールを交渉したりする遊びを大切にする。 - 友達のよさを認め、友だちの姿に刺激を受けて「自分もできるようになりたい」と挑戦する姿を見守ったり励ましたりし、必要に応じて援助していく。	- 新しく出会う友達や先生方、上級生と関わり、一緒に楽しく活動することができるように、出会いの仕方や活動の仕方を工夫する。 「ありがとう」と感謝を伝えることや「ごめんなさい」と謝ることなど、相手を思いやる気持ちや態度の土壌となり、人と関わるための大切な言動について、日常的に価値付けながら涵養していく。
	言葉で伝え合う力	＜「伝えたい」「知りたい」「聞きたい」という気持ちを膨らませながら、伝え合う喜びを味わう子ども＞ 園と学校間で有効な支援を共有することにより、人の声を聞こうとする態度、傾聴する力の醸成につなげる。			
		「話してよかった」という気持ちにつながるように、気付いたことや困ったことなどを自分から話した時には、「教えてくれてうれしいな」「ありがとう」を伝える。 - 先生や友達などに自分から進んであいさつできるように保育士自身が笑顔で積極的に挨拶し、心地良さを感じられるようにする。 - 安心して自分の伝えたいことを友達や先生に伝えることができるように、言語化のサポートをしたり話したことを認めたりする。	- 伝えたいという思いをもてるように様々な体験や活動ができる環境の工夫をする。 - 伝えることの喜びが味わえるように、自分の思いや考えを言葉で表す体験や活動の充実を図る。 - 子ども同士で言葉を交わす楽しさの実感や表現につながっていくように、場面を捉えて伝え方を一緒に考えたり、仲立ちしたりする。 - 友達の思いや考えを聞く機会を捉え、相手にも様々な思いがあることに気付き、話し合いながら遊びを進めていく過程を大切にする。	- 実感を伴いながら言葉を豊かにしていくことができるように、平仮名の学習とともに、実物や実際場面に即した状況を意図的に設け、活用イメージをもたせながら取り上げていく。 - 子どもの言葉を引き出すことができるように「どうしたいの?」「どうしたらできるかな?」という問い掛けを大切にする。 - 子ども同士のコミュニケーションにつながるように、友達の話を聞いて、感じたことや思ったことを共有する場を意図的に設ける。 - 入学おめでとう集会など、子どもがアウトプットの必要感と達成感を感じることができるような機会を意図的に設けていく。	- 子どもたちが意欲的に話合いに取り組めるようなテーマを決めて、相手の話を聞いて質問したり、感想を伝えたりする場を設定する。 - 相手に伝わるように、声の大きさや速さなどを工夫したり、話す事柄の順序を考えて話したりする姿を価値付け、よさを全体で共有する。
育ってほしい 【10の姿】を 意識した 支援上の配慮事項	・子どもの実態から発達の道筋を見通して、「子どもの知的好奇心や気付きを引き出す」「子どもの思いや願いを実現する」ような環境を意図的・計画的に構成し、主体的な活動につなげる。				
	- やってみたいことも、少し難しいと思うことも自分で選んで行動し、「やってみたらできた」という満足感を次に挑戦する気持ちへつなげるようにする。 - 遊びを通して思考を巡らし、想像力を発揮している姿を丁寧に見取り、友達と知恵を出し合い考えが広がる面白さを実感できるようにする。		子どもの興味・関心に応じた学習活動を設定するとともに、意欲的に取り組めるように教材との出会いや活動を工夫する。		
	身近な自然や地域の人、物事に触れ、関心や親しみの気持ちをもつことができるように環境や活動を工夫する。	- 徐々に卒園を意識しながら、自他の成長に気付いたり、お世話になった人たちへの感謝の気持ちをもったりする心の動きにตอบสนองしていく。 - 自分の名前に使われている文字をはじめ、平仮名や片仮名など、文字に興味をもつ遊びやゲームを工夫する。	- 園との学びがつながるような内容や弾力的な時間割を工夫する。 - 子どもたちに、園での経験（できることや好きなこと）を尋ね、学びの中に慣れ親しんだ活動を取り入れることにより、自信をもって小学校生活をスタートすることができるようにする。	情報交換や協議を基に架け橋期のカリキュラムの成果と課題を振り返り、随時更新する。	
園と小学校の交流	- 幼保小相互参観：【（園）主体的・協働的な遊び／（小）主体的・協働的な学びを支える学習意欲】を引き出すための環境の構成、先生の関わり（言葉掛け等）について検証し、有効な環境や支援を共有・蓄積する。 - 情報交換会や交流会：学区の先生同士、子ども同士が、気軽にに関わり合えるような関係の構築に努める。どちらかが「お客さん」になることなく、双方向の関わりを大切にする。 - 幼児と児童の交流活動の際は、「楽しい（わくわくする）活動」であることを大切にしながらも、それぞれの「成長を促す活動」であるかどうかの視点を大切にする。（活動のねらいを先生が明確にもつ。：「〇〇をする。」→「〇〇することを通して～（資質・能力）を育む。」）				
	幼保こ小連絡協議会や里帰り交流、保育士・教諭体験等を通して、子どもの育ちや学びについて情報共有すると共に、円滑な接続に向け双方の取り組みについて共通理解する。	- 一人一人のよさや集団としての育ちを幼保こ小連絡協議会や架け橋推進委員会等で積極的に伝えるときともに、園での取組や環境の構成などを具体的に伝える。 - サポートシートや個別の指導計画を活用し、園での具体的な支援が小学校にも確実に引き継がれるようにする。	- 園で子どもが慣れ親しんだ遊びや、園での具体的な支援について情報を共有し、スタート期の学びに取り入れる。 - 里帰り交流等の交流活動を継続し、相互に触発し合う機会とするとともに、自分の成長を実感できるようにする。	体験入学で、進学する喜びや次年度への活動の意欲付けとなるよう、新1年生への相手意識をもって活動を工夫できるようにする。	
家庭との連携	「早寝・早起き・朝ご飯」やメディアコントロールの必要性について理解の促進を図り、基本的な生活習慣を身に付けることができるように家庭での実践事項を周知する。（メディアコントロールについては子どものみでなく、保護者による「スマホネグレクト」の危険性についても啓発していく。） - 連絡帳や通信等で子どもの様子や先生の思いを伝え、保護者が安心できるようにするとともに、家庭でも話題にし、子どもが褒められたり認められたりする機会を増やすことができるように配慮する。（トラブルがあった時にだけ保護者に連絡するのではなく、日々の頑張りや小さな成長についても、こまめに伝えることを意識する。）				
	園や家庭での様子を共有しながら、日々の成長を喜び合ったり心配事の解消に向けて共に取り組んだりすることに努め、信頼関係を築いていく。	卒園式、入学式までの予定や、就学までに身に付けておきたいこと、小学校での学習や生活などの情報を説明会の他、随時提供し、見通しをもって準備できるように、また、期待感をもって入学の日を迎えられるように支援する。	1年生の目指す姿、スタートカリキュラム等について伝え、理解と協力を得ることができるようにする。 - 学校生活に慣れるまでは、毎日の持ち物や下校時刻等を細やかに連絡し、保護者の安心感へとつなげる。	長期休みの過ごし方や休み明けの生活リズムの回復、家庭での配慮事項について具体的に伝え、協力をお願いする。	